

令和 4 年度 古里中学校 学校評価書

※ 網掛けのない部分が評価計画，網掛けの部分が評価結果を受けて記入する。

1 教育目標（目指す生徒像含む）

青雲の志	夢と希望を持ち，その実現に向けて自己を高めようとする強い意志
友垣の和	正義感・連帯感を大切に，友達のために尽くそうとする心と行為
冴えた知性	学んだことを最大限に活かし，よりよい社会の創造に貢献する能力

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

- ・信頼と絆（子ども・保護者・地域・仲間との信頼関係と絆を深めることによって，教育の推進力とする。）

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

- ・生徒・保護者・地域から信頼される学校の創造に努める。

[古里中学校地域学校園教育ビジョン]

夢や目標をもち，その実現に向けて，よく考え，自ら鍛え，思いやる心を磨きながら，生きる力を身に付ける児童生徒の育成

4 教育課程編成の方針

- ・学校教育目標の具現化を目指し，経営方針に従い，本年度の努力点が達成できるよう，弾力的に編成する。

5 今年度の重点目標（短期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

【 学 校 運 営 】

- 確かな学力の向上を目指した教員の授業力の向上（校内授業研究会の充実）
 - ・情報端末(パソコン)の効果的な使用についての研究（主体的な学びに向けて）
 - ・将来の目標を持ちその実現に向けて努力しようとする生徒の育成（キャリア教育の充実）
 - ・相手を理解し，それを態度や行動で表そうとする生徒の育成（人権教育の推進）
 - ・働き方改革の推進（学校業務のスリム化，勤務時間を意識した働き方の推進）
 - ・部活動の適切な運営（平日 2 時間，休日 3 時間まで。週 2 日以上 of 休養日の設置）

【 学 習 指 導 】

- 確かな学力の育成・向上（わかる授業の実践を通して）
- 「学びあい」を通して学習意欲の向上，基礎・基本の定着及び思考・判断・表現力等の育成
 - ・主体的，対話的で深い学びの視点からの授業改善（指導と評価の一体化）
 - ・言語活動の充実（自分の考えを書いて発表する活動の重視）
 - ・家庭学習を中心とした自主学習の内容の充実（学習計画表を生かして）
 - ・I C T活用授業の推進
 - ・特別支援教育の推進

【 児 童 生 徒 指 導 】

- コミュニケーション能力の育成
 - ・教育相談の充実
 - ・いじめ防止対策の強化
 - ・よりよい人間関係を築くために人の気持ちを考えられる生徒の育成：人権教育の推進

【健康（体力・保健・食・安全）】

- 健康面・体力面に関心を持ち，積極的に健康・体力の向上に取り組む生徒の育成

6 自己評価（評価項目のAは市共通、Bは学校独自を示す。）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

※「主な具体的な取組」の方向性には、A拡充 B継続 C縮小・廃止、を自己評価時に記入する。

項目	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
目 指 す 生 徒 の 姿	A 1 生徒は、進んで学習に取り組んでいる。 【数値指標】 肯定的割合 90%以上	○地域学校園の「家庭学習の手引き」に基づいて家庭学習の習慣化と質の向上に継続して取り組む。 ○「本時のねらい」を明確化し振り返りの場を設けることで、生徒が主体的・意欲的に取り組む授業づくりに努める。	B	【達成状況】 ・教職員、保護者、生徒の平均肯定的回答が94.1%であり、数値目標を上回った。 昨年度より-0.6下回ったが、市平均より+2.6 【次年度の方針】 ○地域学校園の「家庭学習の手引き」に基づいて家庭学習の習慣化と質の向上に継続して取り組む。 ○より具体的に「本時のねらい」を設定し、振り返りの場を設けることで、生徒が主体的・意欲的に取り組む授業づくりに努める。
	A 2 生徒は、思いやりの心をもっている。 【数値指標】 肯定的割合 80%以上	・道徳の授業に限らず、授業の様々な場面で、対話や討論形式の授業を行い、お互いを思いやり、尊重し、生命や人権を大切にす態度の育成に努める。 ・日常生活での言葉掛けに加え、生徒に役割を与え、活動内容を的確に評価することにより、生徒の自己肯定感を育てよう努める。	B	【達成状況】 ・教職員、保護者、生徒の平均肯定的回答が95.0%であり、数値目標値を上回った。 昨年度より-1.2 市平均より+1.9 【次年度の方針】 ・道徳の授業だけでなく、学校生活を通して、教員や他の生徒との対話や討論など行うとともに、生徒に考えさせる機会を設ける。 ・今年度に引き続き、日常生活での言葉掛けを大切にし、様々な活動を通しての成功体験を積ませることで、生徒の自己肯定感を育てよう努める。
	A 3 生徒は、きまりやマナーを守って生活をしている。 【数値指標】 肯定的割合 90%以上	・きまりやマナーを守って生活できる生徒を育成するために、教職員からの指導だけではなく、生徒会と連携を図り、生徒自らがルールやマナーを守って生活しようとする意識の向上を図る。	B	【達成状況】 ・生徒の肯定的回答が95.2%であり、数値目標値を上回った。 昨年度より-0.2 市平均より+5.5 【次年度の方針】 ・今年度に引き続き、教職員からの指導だけではなく、生徒会と協力して、きまりやマナーの必要性を考えさせる指導を行う。
	A 4 生徒は、時と場に応じたあいさつをしている。 【数値指標】 肯定的割合 90%以上	○新型コロナウイルス感染症拡大防止対策として、小中生が顔を合わせてのあいさつ運動の実施が難しいことも考えられるため、状況を見極めながら、学校園小学校や生徒会と連携を図り、新しい形のあいさつ運動を提案していく。 ・教職員からのあいさつを積極的に行い、普段からあいさつが多く飛び交う、活気のある学校づくりに努める。	B	【達成状況】 ・生徒の肯定的回答 97.9%、保護者は93.6%であり、生徒、保護者ともに数値目標値を上回った。 生徒：昨年度より+1.0 市平均より+1.9 保護者：昨年度より-0.3 市平均より+2.3 【次年度の方針】 ○地域学校園共通の「あいさつ運動」や日々の生活の中で、望ましいあいさつ習慣を身に付けさせる。 ・教職員から積極的なあいさつを行い、活気のある学級づくりの一助となるように努める。

A 5 生徒は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。 【数値指標】 肯定的割合 80%以上	・学習や部活動、学校行事において目標を明確にし、生徒各自の目標をもたせて取り組ませる。 ・学活等で振り返りの活動を設定し、次の場面で生かせるように指導する。 ・教職員が生徒の結果よりも過程を重視し、成長した部分を認める指導に重点を置く。	B	【達成状況】 ・生徒の肯定的回答 86.5%, 保護者は 81.5% であり、生徒、保護者ともに数値目標値を上回った。 - 生徒：昨年度より+0.8 市平均より-1.9 - 保護者：昨年度より-5.3 市平均より+2.4 【次年度の方針】 ・学習や部活動、学校行事において目標を明確にし、生徒各自の目標を持たせて取り組ませる。 ・振り返りの機会を設定し、次の場面で生かせるように指導する。 ・教職員が、生徒の結果よりも過程を重視し、成長した部分を認める指導に重点を置く。
A 6 生徒は、健康や安全に気を付けて生活している。 【数値指標】 肯定的割合 80%以上	・保健だより、食育だより、集会等で啓発活動を継続する。 ・委員会活動や交通安全教室、避難訓練を実施することで、安全への意識を高めさせる。	B	【達成状況】 ・生徒の肯定的回答 96.2%, 保護者は 95.8% であり、生徒、保護者ともに数値目標値を上回った。 - 生徒：昨年度より-0.7 市平均より+2.3 - 保護者：昨年度より+2.7 市平均より+4.2 【次年度の方針】 ・保健だより、食育だより、集会等で啓発活動を継続する。 ・普段の学校生活での注意喚起や各種委員会活動、交通安全教室、避難訓練を通して、健康や安全への意識を高める。
A 7 生徒は、夢や目標をもって、社会に貢献できるよう努力している。 【数値指標】 肯定的割合 80%以上	・「働く人に学ぶ」「社会体験学習」「先輩に学ぶ」等の行事において、働く意義を学べるように設定する。 ・発達段階に応じたキャリア教育の実践を通して、自己の将来に夢や希望をもち、社会に貢献していこうとする意欲を育てる。 ・家庭や地域との連携を図り、各種ボランティア活動に積極的に参加させる。	B	【達成状況】 ・教職員、保護者、生徒の平均肯定回答が 84.0% であり、数値目標値を上回った。 - 昨年度より-3.4 市平均より+1.6 【次年度の方針】 ・「働く人に学ぶ」「社会体験学習」「先輩に学ぶ」等の行事において、働く意義を学べるように設定する。 ・発達段階に応じたキャリア教育を、学級活動や道徳の時間、学年集会、各種たよりでの啓発等で行い、夢や目標をもち、社会に貢献していこうとする意欲を育てる。 ・保護者の肯定回答率が 81.5% であった。各種たよりや HP で、学校で実践したキャリア教育についての情報発信に努め、保護者に周知する。
A 8 生徒は、英語を使ってコミュニケーションしている。 【数値指標】 肯定的割合 80%以上	・英語の授業において ALT と協働して言語活動を充実させるとともに、授業以外でも ALT との触れ合いの場を設けコミュニケーションを図る機会を増やす。	B	【達成状況】 ・生徒の肯定的回答が 87.2% で数値目標を上回った。 - 昨年度より+2.8 市平均より+2.1 【次年度の方針】 ・英語の授業において ALT と協働して言語活動を充実させるとともに、生徒間のコミュニケーションの機会を多く取り入れる。

A 9 生徒は、宇都宮の良さを知っている。 【数値指標】 肯定的割合 80%以上	・総合的な学習の学習の中で、1年生は「古里地域をまとめる学習」、2年生は社会体験学習の「職業関係者からのインタビュー」を通して、宇都宮の地域に根付く文化や情報にふれる機会を増やす。 ・宇都宮学の内容を精選し、テーマを決めて個人の考えが深められるようなワークシートや学年課題を考えていく。	B	【達成状況】 ・生徒の肯定的回答が84.4%で数値目標を上回った。昨年度より+7.8 【次年度の方針】 ・肯定的割合の数値指標を85%とする。 ・総合的な学習の学習の中で、1年生は「古里地域をまとめる学習」、2年生は社会体験学習の「職業関係者からのインタビュー」を通して、宇都宮の地域に根付く文化や情報にふれる機会を増やす。 ・宇都宮学の内容を精選し、テーマを決めて個人の考えが深められるようなワークシートや学年課題を考えていく。 ・LRTに乗るなど宇都宮の良さを実体験できる活動を取り入れる。
A10 生徒は、ICT機器や図書等を学習に活用している。 【数値指標】 肯定的割合 90%以上	・端末機器を各教科の授業で積極的に活用する。 ・相互授業参観をはじめ、ICT機器を活用した授業を展開するための研修を行う。 ・司書教諭と連携を図り、図書館の図書や資料を授業で積極的に活用する。	B	【達成状況】 ・教職員、保護者、生徒の平均肯定的回答は86.6%で、数値目標を下回った。 ・昨年度より-0.7 市平均より+2.5 【次年度の方針】 ・相互授業参観をはじめ、ICT機器を活用した授業を展開するための研修を行う。 ・司書教諭と連携を図り、図書館の図書や資料を授業で積極的に活用を促す。
A11 生徒は、高齢者に対する感謝やいたわりの心をもっている。 【数値指標】 肯定的割合 85%以上	・継続して道徳の授業において、指導内容項目 B-6（思いやり、感謝）、C-14（家族愛）の授業を充実させる。	B	【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は96.3%で、数値目標を上回った。 ・昨年度より-0.9 市平均より+1.5 【次年度の方針】 ・継続して道徳の授業において、指導内容項目 B-6（思いやり、感謝）、C-14（家族愛）の授業を充実させる。
A12 生徒は、「持続可能な社会」について、関心を持っている。 【数値指標】 肯定的割合 80%以上	・今年度の環境委員の活動を例にして、次年度も古里中学校の生徒としてSDGsにどのように取り組むかを、生徒会・各専門委員会が協力し実施する。 ・各授業等でSDGsに触れ、教科間で行った内容などの情報の共有化を図る。 ・各教室での燃えるゴミとプラゴミの分別を呼びかけ、日々の生活の中での行動を意識させる。	A	【達成状況】 ・生徒の肯定的回答が81.9%で数値目標を上回った。昨年度より+9.0 【次年度の方針】 ・肯定的割合の数値指標を85%とする。 ・今年度の環境委員の活動を例にして、次年度も古里中学校の生徒としてSDGsにどのように取り組むかを、生徒会・各専門委員会が協力し実施する。 ・各授業等でSDGsに触れ、教科間で行った内容などの情報の共有化を図る。 ・各教室での燃えるゴミとプラゴミの分別を呼びかけ、日々の生活の中での行動を意識させる。 ・感染状況にもよるが、ペットボトル、プルタブの回収、古着回収など外部活動団体との連携を図る。 ・節電、節水など身近な環境へ配慮する活動を各委員会を中心に実施する。

A13 教職員は、特別な支援を必要とする生徒の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】 肯定的割合 80%以上	・特別支援教育コーディネーターや教育相談担当を中心に、配慮生徒の情報共有（校内支援委員会、教育相談部会）を図り、学校資源を活用しながら、適切な支援に努める。 ・SC、MS、関係機関との連携を密にし、特別な支援を必要とする生徒に対して組織で取り組む。	B	【達成状況】 ・教職員の肯定的回答が 100.0%と数値目標値を上回っている。 昨年度より+6.9 市平均より+4.3 【次年度の方針】 ・今年度に引き続き、特別支援教育コーディネーターや教育相談担当を中心に、配慮生徒の情報共有（校内支援委員会、教育相談部会）を図り、学校資源を活用しながら、適切な支援に努める。また、SC、MS、関係機関との連携を密にし、特別な支援を必要とする生徒に対して組織で取り組む。
A14 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。 【数値指標】 肯定的割合 90%以上	・学校行事・日常の観察や教育相談、定期的に実施するアンケートなどを通じて、いじめの早期発見に取り組み、適切かつ迅速に組織で対応する。日々の生活の中で、思いやりや助け合いの心を育てるとともに規範意識を高め、望ましい人間関係を築く力を育成する。 ・いじめゼロ運動を展開し、いじめは許されない行為であることを継続的に指導していく。	B	【達成状況】 ・全体の肯定的回答が 94.5%であり、数値目標値を上回った。 昨年度より+1.3 市平均より+2.2 【次年度の方針】 ・日常の観察や教育相談、アンケート調査などを通じて、いじめの早期発見に取り組み、適切かつ迅速に対応する。 ・学校生活全体を通して、思いやりや助け合いの心を育てるとともに規範意識を高め、望ましい人間関係を築く力を育成する。 ○生徒会と協力して、いじめゼロ運動を展開し、自分の大切さとともに他の人の大切さを実感させる。
A15 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。 【数値指標】 肯定的割合 90%以上	・定期（随時）教育相談、Q-U結果を活用し、不適応傾向にある生徒の早期発見を図り、学校体制で早期対応する。 ・教育相談担当を中心に、配慮生徒の情報共有を図り、学校資源を活用しながら、適切な支援に努める。また、SC、MS、関係機関との連携を密にし、支援を必要とする生徒に対して組織で取り組む。	B	【達成状況】 ・教職員、保護者、生徒の平均肯定的回答が 97.1%であり、数値目標値を上回った。 昨年度より+1.9 市平均より+2.7 【次年度の方針】 ・今年度に引き続き、定期（随時）教育相談、Q-U結果を活用し、不適応傾向にある生徒の早期発見を図り、学校体制で早期対応する。加えて、教育相談担当を中心に、配慮生徒の情報共有を図り、学校資源を活用しながら、適切な支援に努める。また、SC、MS、関係機関との連携を密にし、支援を必要とする生徒に対して組織で取り組む。
A16 教職員は、外国人児童生徒等の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】 肯定的割合 80%以上	・配慮生徒の情報共有、教育相談部会の充実、国際理解教育の充実を図るなど、支援を必要とする外国人生徒等に対して、組織で対応する。 ・特別支援教育コーディネーターや日本語指導担当を中心に当該生徒の情報共有を図り、適切な支援に努める。	B	【達成状況】 ・教職員の肯定的回答は 100.0%であり、数値目標値を上回った。 昨年度より+6.9 市平均より+4.3 【次年度の方針】 ・特別支援教育コーディネーターや日本語指導ボランティアを中心に当該生徒の情報共有を実践する。 ・社会や総合的な学習の時間を通して、外国の言語や文化を理解する機会を設定する。
A17 学校は、活気があり、明るくいいきとした雰囲気である。 【数値指標】 肯定的割合 85%以上	・学校行事等の評価の反省を生かし、内容を見直し、改善に努める。 ・学校・学級の他、異年齢集団活動を通して、様々な人との関わりをもたせ、心の通じ合いや目標達成の喜びを体験させる。	B	【達成状況】 ・全体の平均肯定的回答は、94.1%であり、数値目標値を上回った。 昨年度より、-1.1 市平均と同じ 【次年度の方針】 ・学校行事などの評価の反省を生かし、内容を見直し、改善に努める。 ・異年齢集団活動を通して、様々な人との関わりをもたせ、心の通じ合いや目標達成の喜びを体験させる。

A18 教職員は、分かりやすい授業や一人一人へのきめ細かな指導をしている。	・課題の提示、発問、板書等、指導方法について工夫し、わかる授業を展開する。 ・相互授業参観の様子や学習の内容をHPに掲載するなど学力向上に向けた取組を保護者に発信し理解してもらう。	【達成状況】 ・教職員、保護者、生徒の平均肯定回答は93.7%で、数値目標を上回った。昨年度より+1.0 市平均より+3.7 【次年度の方針】 ・宇都宮市学校教育スタンダードを意識し、課題の提示、発問、板書等、指導方法について工夫する。 ・相互授業参観の様子や学習の内容をHPに掲載するなど学力向上に向けた取組を保護者に発信し理解してもらう。
A 19 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。 【数値指標】 肯定的割合 80%以上	・風通しの良い雰囲気醸成し、教職員間の理解と連携を深め、同僚性を高めるとともに、職員個々の良さを生かせる体制づくりに努める。 ・学校行事や職員研修などにより、全職員が専門性を生かして業務に取り組む体制を強化していく。 ・教科部会や教科主任会、校務分掌部会等の機能を生かし、教職員の考えを業務に生かす。	【達成状況】 ・教職員の肯定的回答は 100.0%であり、数値目標値を上回った。 【次年度の方針】 ・風通しの良い雰囲気醸成し、教職員間の理解と連携を深め、同僚性を高めるとともに、職員個々の良さを生かせる体制づくりに努める。 ・学校行事や職員研修などにより、全職員が専門性を生かして業務に取り組む体制を強化していく。 ・教科部会や教科主任会、校務分掌部会等の機能を生かし、教職員の考えを業務に生かす。
A 20 学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。 【数値指標】 肯定的割合 80%以上	・負担となっている業務を見直し、業務の効率化を図っていく。 ・部活動の在り方の見直しを図る。 ・タブレットの有効活用を共有する。 ・係内で分担、連携し、業務の効率化を図る。 ・部活動終了時刻を日没時刻に合わせるように活動時間の見直しを行う。 ・部活動指導員制度を適正に運用する。（単独での指導、教員不在での引率可能等）ことで、教員の負担軽減を図る。	【達成状況】 ・教職員の肯定的回答は 64.0%であり、数値目標値を下回った。 【次年度の方針】 ・教職員の業務を見直すとともに効率化を図り、生徒と向き合う時間の確保に努める。 ・部活動の在り方の見直しを図る。 ・タブレットの有効活用を共有する。 ・係内で分担、連携し、業務の効率化を図る。 ・部活動指導員制度を適正に運用する。（単独での指導、教員不在での引率可能等）ことで、教員の負担軽減を図る。
A 21 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。 【数値指標】 肯定的割合 80%以上	○あいさつ運動等の生徒会活動による学校園共通の取組を実践する。 ○PTAや地域協議会を通した、地域学校園共通の取組を行うが、感染症防止対策のため、同じ取組を各校（学校園小中学校3校）それぞれで行うことも考えていく。	【達成状況】 ・全体の平均肯定回答は 84.1%であり、数値目標値を上回ったが、生徒の回答は、65.3%であった。小中一貫に関する行事が減ってしまったため、数値が低くなったと考えられる。昨年度より-0.9 市平均より-2.1 【次年度の方針】 ・あいさつ運動などの生徒会活動による学校園共通の取組を実践する。 ・小中共通した取組に関して、生徒の意識を高める。（学習関係、お弁当の日、冒険活動等） ・PTA や地域協議会を通した、地域学校園共通の取組を行う。

A22 学校は、地域の教育力を生かした特色ある教育活動を展開している。 【数値指標】 肯定的割合 80%以上	・「魅力ある学校づくり地域協議会」を活用して学校をより開かれた場にするるとともに、地域の教育力や学校支援ボランティアを十分に活用する。 ○学校園との連携を深めて、地域との連携を強化する。	B	【達成状況】 ・全体の平均肯定回答は 88.6%であり、数値目標値を上回っている。 昨年度より-2.1 市平均より-3.2 【次年度の方針】 ・「魅力ある学校づくり地域協議会」を活用して学校をより開かれた場にするるとともに、地域の教育力や学校支援ボランティアを十分に活用する。 ○学校園との連携を深め、地域との連携を強化する。
A23 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、よりよい生徒の育成に取り組んでいる。 【数値指標】 肯定的割合 80%以上	・保護者会、三者懇談、オープンスクール等を活用し、保護者との連携を強化する。 ・地域・企業等と連携を図り、より充実した教育活動を行う。	B	【達成状況】 ・全体の平均肯定回答は 88.6%であり、数値目標値を上回っている。 昨年度より-2.1 市平均より-3.2 【次年度の方針】 ・保護者会、三者懇談、オープンスクール等を活用し、保護者との連携を強化する。 ・「社会体験学習」や、「職業人に学ぶ」、「先輩に学ぶ」等、家庭・地域・企業等と連携を図り、より充実した教育活動を行う。
A24 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。 【数値指標】 肯定的割合 80%以上	・安全点検の実施により、破損箇所、危険箇所を共有するとともに、学校業務担当、機動班、事務担当、市教委等との連携を図り、速やかな改善、修繕に努める。	B	【達成状況】 ・教職員、保護者、地域住民の平均肯定回答が 97.9%であり、数値目標値を上回った。 昨年度より+2.1 市平均より+2.1 【次年度の方針】 ・普段から危険箇所がないか意識し、安全点検の実施により、破損箇所、危険箇所を共有するとともに、学校業務担当、機動班、事務担当、市教委等との連携を図り、速やかな改善、修繕に努める。
A25 学校は、学習に必要な I C T 機器や図書等を整えている。 【数値指標】 肯定的割合 80%以上	・相互授業参観において、ICT 教育を視点にした授業を展開し、教職員の活用能力を育成する。 ・各種たよりや HP など、ICT 機器を使った授業を紹介したり、図書の更新、充実について周知したりするなど、学校の取組についての情報発信に努める。	B	【達成状況】 ・平均肯定回答は 86.6%で、数値目標を上回った。 昨年度より-0.7 市平均より+2.5 【次年度の方針】 ・ICT 教育を活用した授業の展開例を教員間で共有し、教職員の活用能力の向上に努める。 ・各種たよりや HP など、ICT 機器を使った授業を紹介したり、図書の更新、充実について周知したりするなど、学校の取組についての情報発信に努める。

本校の特色・課題等	B 1 コミュニケーション能力の向上に努める。 【数値指標】 肯定的割合 80%以上	・授業では、話し合い活動を積極的に取り入れ、自分の考えや感じたことを自分のことばで書いて伝える活動を設定する。	B	【達成状況】 ・平均肯定回答は 92.1%で、数値目標を上回った。 昨年度より-1.8 【次年度の方針】 ・話し合い活動を積極的に取り入れ、自分の考えや感じたことを自分のことばで伝えたり、相手の立場を考えながら聴いたりする力を養う。
	B 2 自分の将来について考え、社会の出来事に興味・関心をもって生活することができる。 【数値指標】 肯定的割合 80%以上	・3年間を見通したキャリア教育指導計画に基づき、各教科、道徳、特別活動、総合的な学習の時間を関連付けて指導する。 ・望ましい職業観や勤労観を養うために、地域や家庭との連携・協力を深めた授業やICT教材を用いて広く情報収集の活動を行う。	B	【達成状況】 ・全体の平均肯定回答は 84.6%で数値目標地を上回ったが、保護者の肯定的回答が 67.3%で、昨年度より 4.6%下回った。 【次年度の方針】 ・3年間を見通したキャリア教育指導計画に基づき、各教科、道徳、特別活動、総合的な学習の時間を関連付けて指導する。 ・地域や家庭と連携した授業を行うとともに、ICT教材を用いて情報収集の活動を行う。 ・各種たよりやHPで、学校の取組についての情報発信に努める。
	B 3 豊かな表現力を支える言語活動を向上させるため、読書の習慣化に努める。 【数値指標】 肯定的割合 80%以上	・朝の読書の時間の時間確保を継続する。 ・利用しやすい図書室の環境整備と利用促進を図るなど、読書環境づくりを進める。 ・「図書館だより」を通した多様な図書情報の提供や生徒会図書委員会の活動を通して、読書に対する意欲を高めさせる。 ・読み聞かせやブックトーク、ビブリオバトルなどの活動を取り入れ、読書への関心を持たせる。	B	【達成状況】 ・平均肯定回答は 78.3%で、数値目標を下回った。 昨年度より-0.6 【次年度の方針】 ・朝の読書の時間の時間確保を継続する。 ・利用しやすい図書室の環境整備と利用促進を図るなど、読書環境づくりを進める。 ・「図書館だより」やHPを通した多様な図書情報の提供や生徒会図書委員会の活動を通して、読書に対する意欲を高めさせる。 ・読み聞かせやブックトーク、ビブリオバトルなどの活動を取り入れ、読書への関心を持たせる。

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

○A3の「きまりやマナー」A4「時と場に応じたあいさつ」については、教職員、保護者、生徒の肯定的回答が市平均を上回っている。ルールを守って行動する生活習慣の確立に向けて、日頃から、教職員が生徒に寄り添って声をかけたり、生徒に考えさせたりする活動を取り入れてきた成果が表れていると思われる。また、教職員からの積極的なあいさつや、生徒によるあいさつ運動などの活動が実を結んでいると考えられる。

○A6「健康や安全」については、教職員、保護者、生徒の肯定的回答が市平均を上回り、高い数値を示している。新型コロナウイルス感染症対策について、指導を継続してきた効果が表れたものと考えられる。

・A15「生徒がともに認め合い励まし合う学級経営」については、教職員、保護者、生徒の肯定的回答が市平均を上回っている。教職員が生徒一人一人に細やかに目を向け、良いところを褒め、認め励まし合う学級の雰囲気づくり、より良い人間関係の構築に努めてきた成果が表れていると思われる。

・A12「持続可能な社会」については、教職員、保護者、生徒の肯定的回答が市平均を下回っている。身の回りの生活における工夫や課題について生徒が気づいていないことが考えられる。各教科の授業を通して現代社会の課題について理解させるとともに、生徒会活動等を通じて、日常生活の中から持続可能な社会の構築に向けて、すでに実践していること、今後さらに貢献できることに気づかせ、意識を高めていく必要がある。

7 学校関係者評価

- ・全体的に高い評価を得ているが、10の設問中7の設問で、肯定的回答割合が市の平均を上回った。
- ・ウィズコロナ時代の合唱コンクールのやり方で、安心して楽しめました。ありがとうございました。
- ・今後も地域と連携した学校運営をお願いします。
- ・合唱コンクールを見て、生徒たちがとても生き生きして楽しそうによく活動できていると感じた。
- ・不登校生徒への対応について細やかな対応をお願いします。

8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

- 一人一台端末等のICT機器を活用した指導方法の工夫・改善に努め、主体的・対話的な学びあいを通した確かな学力の育成・向上を図るとともに、コミュニケーション能力の育成を図っていく。
- きまりやマナーを守った生活や時と場に応じたあいさつについての肯定的割合が高いので、今後も自ら正しい判断ができるよう規範意識を高めていくとともに、自ら明るく元気の良いあいさつが交わし合える学校づくりを目指していく。
- 素直な生徒が多く、落ち着いた学校生活が送れていることから、今後も互いに相手を理解しそれを態度や行動で表そうとする生徒を育成していく。
- ・教職員の働き方改革については、業務の効率化や意識改革、部活動指導員の導入など、その改善に取り組んでいるところであるが、さらに推進していく。
- ・今年度も「学校だより」を定期的に発行し自治会を通して地域に配付したり、ホームページを通して本校の教育活動における取組を伝えたりすることにより保護者・地域住民の理解と協力を得ることができた。今後も引き続き、保護者・地域への広報活動を行い、安心・安全で信頼させる学校づくりに努めていく。